

飯塚元気プロジェクト委員会のテーマと提言

《 10年後の明るいまちづくりをめざして 》

当委員会では、10年後の飯塚市のあるべき姿をめざして、地域活性化及び生き残り策を検討する中で、飯塚市が保有している強みを活かし、「高齢者にやさしいまちづくり」(日本一をめざす)と「大学存続支援、大学と地域(住民)との共栄策」の2つの目標を掲げ、その実現に向けて取り組むこととなった。

1. 「高齢者にやさしいまちづくり」(日本一をめざす)

飯塚市は、平成18年4月に1市4町が合併し、131千人の人口を擁する筑豊地域の中核都市である。

飯塚市の医療環境は、人口131千人の都市でありながら、大規模病院として5病院が立地し、近年、麻生飯塚病院45億円、済生会飯塚嘉穂病院30億円、飯塚市立病院30億円(予定)総合せき損センター52億円、潁田病院15億円、合計172億円の投資が行われている。

なかでも、麻生飯塚病院は救命救急センターとして、一日の救急車の搬送人員が20人(年間7,500人)と人口10万人当たり全国でも22番目の病院である。

人口10万人当りの飯塚市の医者の数は338人であり、福岡市の346人に近く、全国平均の230人、福岡県平均の282人を上回っている。

「統計いづか」によると、飯塚市は、65歳以上の人口比率が2011年の25%から2025年には34%になると予想されている。

また、行政も現在スマート・ウエルネス・シティー構想を掲げ、「日本一の健康医療都市」を目指して地域住民への啓蒙活動に取り組んでいる。

国が第3次一括法案に示されている地方自治体への権限移譲は、平成27年度以降本格化し、市民にとって身近な在宅支援事業などのサービスへの期待感も予想される。行政が主体的に行ううえで、上記のように、医療環境で大きな強みを保有している飯塚の医療・福祉・介護の分野でトータル的な連携や調整が重要視されることになるとと思われる。

この様な中、飯塚商工会議所では少子高齢化社会を迎えて「高齢者にやさしいまちづくり」(日本一をめざす)を実現するため『飯塚元気プロジェクト委員会』を設置し、地域医療と生きがいづくりに関する提言をまとめた。

以下、(1)～(4)までを実現することによって、高齢者にとって日本一やさしいまちをめざす。

(1) かかりつけ医について

医師会への要望と提言

核家族化が進む中、地域住民と開業医双方がかかりつけ医についての十分な認識を持ち、家族や独居者が相談できる体制づくりを行う。

さらに、夜間診療・往診等の余地はないのか。調整が無理ならば、これに代わる方策を検討し、かかりつけ医と大規模病院との親密な病診連携を図ること。

大規模病院への要望と提言

初診患者は、1次医療機関である開業医に任せるなど、かかりつけ医との親密な連

携を図ること。

麻生飯塚病院で行っている「地域医療サポーター養成講座」でPRをすること。

行政への要望と提言

市民・開業医双方への働きかけとして、市、医師会、商工会議所との合同会議の設置と市報を利用した啓蒙。更には開業医と大規模病院の仲介。

商工会議所としての取組み

医師会への後押し並びに市民への働きかけと啓蒙。更には開業医と大規模病院の仲介。

(2) 医療相談コールセンターについて

医師会への要望と提言

コールセンターに代わる提案。

新医師会館へ移転後に、コールセンターに類似したものの提供。

大規模病院への要望と提言

麻生飯塚病院の救命救急センターでの対応。

済生会飯塚嘉穂病院、飯塚市立病院の急患センターでの対応。

行政への要望と提言

他の行政のコールセンター施行例の調査研究とコールセンター設置推進のための助力

商工会議所としての取組み

コールセンター設置推進のための助力

(3) 地域医療サポーター制度について

医師会への要望と提言

在宅医療の研修会を立上げ、実施についての研究。

新医師会館へ移転後に、地域医療サポーター制度に類似したものの提供。

大規模病院への要望と提言

麻生飯塚病院については、地域医療サポーター養成講座の伝播。

済生会飯塚嘉穂病院については、穂波地域への拡張伝播。

穎田病院については、在宅医療の研修会の実施。

(当病院は、平成 24 年度に厚生労働省の「在宅医療を含む地域包括ケアシステムの開発及び実践に関する調査研究事業」を実施)

行政への要望と提言

地域医療サポーター制度の市報での紹介。

在宅医療に関する協議会を市、医師会、商工会議所、穎田病院で設置することを検討。

商工会議所としての取組み

会議所報での紹介。

(4) 各医療機関情報の周知について

医師会への要望と提言

新医師会館へ移転後に、企画立案し提供。

開業医の専門分野・診療時間等一定範囲での情報開示。

大規模病院への要望と提言

麻生飯塚病院のボランティア事業の周知と、済生会飯塚嘉穂病院の無料低額診療制度の周知。

行政への要望と提言

市報による広報

商工会議所としての取組み

「おたっじゃ倶楽部」を活用し、かかりつけ医の普及・啓蒙及びマップの作成。

(5) 診療カルテの共有化について

医師会への要望と提言

先進地事例を調査研究し会員相互の温度差を意識改革し、電子カルテの先進地を目指すこと。

大規模病院への要望と提言

麻生飯塚病院での電子カルテに期待し、合せて指導を期待する。

行政への要望と提言

国の補助制度等の情報収集と、医療費軽減のために共有化の後押しを図る。

商工会議所としての取組み

国の補助制度等の情報収集と、商工会議所として後押しを図ること。

(6) 高齢者の生きがいづくりについて

福岡県が推進している70歳現役社会づくりの推進と啓蒙。
市民農園の拡大と充実。

2. 大学存続支援、大学と地域（住民）との共栄策

飯塚市は、九州工業大学情報工学部・近畿大学産業理工学部・近畿大学九州短期大学の3大学を有している。このことは、飯塚市の大きな強みであるが、昨今の少子化が進む中、学生数の減少は各大学の存続等にも繋がるため、『飯塚元気プロジェクト委員会』のテーマとして取り上げた。

(1) 大学を取巻く現状等について

3大学とも、就職率の高さ（九州工業大学情報工学部 96.7%、近畿大学産業理工学部 87.5%・近畿大学九州短期大学（保育科）96.6%）等もあり、堅実な大学運営である。

(2) 大学と地域との共栄策について

商工会議所では、今後も意見交換会を開催しながら、九州工業大学情報工学部（電気自動車研究サークル支援）・近畿大学産業理工学部（硬式野球部後援会）等、適宜支援協力していく。

また、必要に応じて3大学合同の懇談会を開催する。

(3) 大学からの要望等について

3大学からは、特段の要望等はなく今後の推移を見守りたい。

平成25年5月29日

飯塚市長 齊藤守史様

飯塚商工会議所
飯塚元気プロジェクト委員会
委員長 澁田繁晴